北海道バプテスト連合ニュース
全道にキリストの光を！

2018年10月発行　No. 115
発行者　田森茂基　　編集者　西島啓喜
発行所　070-0058 旭川市8条西1丁目1-11
旭川バプテスト教会内
http://hokkaidobap.jimdo.com pw:jbc1947

巻頭言

# 『困難の中に置かれた私たちの祈り』

札幌バプテスト教会　牧 師　石橋 大輔

【9/6（木）地震当日の教会】

札幌教会の建物は、幼稚園の倉庫で物が崩れたくらいで、新・旧会堂共に被害はなかった。この日15時半頃に教会は停電から復旧したため、地域の方々に「水」と「トイレ」と「携帯充電」の提供を始めたところ、ライフライン難民となっておられた方々が常時３０～４０名ほど出入りされたため、夜１２時まで開放を続けた。石橋牧師家族が自宅裏で崖崩れの恐れがあることから家族で教会に避難し、寝泊まりしたのに合わせ、教会関係者の子連れ家族数組が教会に宿泊し、地域への活動を支えた。

【9/7（金）の教会】

地震から二日目。朝から充電希望者が来ていたが、「背伸びした活動を行わない」という方針を確認し、午前中は教会を閉鎖した。ただ、前日に日本キリスト教会豊平教会の稲生牧師から「教会の電気が通じないので、“金曜食堂(ホームレス支援)”のおにぎりが作れないので手伝ってもらえないか？」との相談があったため、午前中はおにぎりを作り、お届けした。午後からは、教会玄関の風除室を解放したが、朝までに教会周辺は概ね通電しており、前日と比べ訪問者は激減した。それでも、通電が遅れていた南区の方々が数組来られ、ゆっくりと話せた。

【9/8（土）の教会】

前日夜には道内全域で概ね通電が確認されたことを受け、この日は活動を中止。通電が遅れていた教会員も教会に顔を出したり、連絡を入れてくれたりするようになったため、石橋は通電の遅れた教会員宅をできる限り訪問、また電話での連絡・確認を行いつつ、無牧師のリビングホープ教会（以下「LH教会」）の被害状況を確認に出かけた。LH教会では大きなストーブが倒れ、食器棚からは食器が飛び出し破損するという状況だった。

【9/ 9（日）以降の教会】

地震後から日曜日までに予定していた教会及び幼稚園の行事についてはすべて中止または延期とし、日曜11時からの「主日礼拝」のみを行ったが、この日多くの教会員は教会学校の行われる10時には集い始め、互いの無事を喜び合った。また、いつもは礼拝に来られない幼稚園の園児家族や地域の方々なども礼拝に集われていたのが印象的だった。

また、LH教会の代表執事と相談の上、この日のLH教会での朝の礼拝は中止とし、午後2時頃から両教会で協力して復旧作業、午後4時から「合同夕礼拝」をささげた。

【主日礼拝の中でささげられた祈り】

この世界のすべてを創造し、この私たちの歩みを導いてくださる、主イエス・キリストの父なる神様。あなたの御名を心からほめたたえます。「光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった」（ヨハネ1：4）との言葉を、これほど噛みしめながら過ごしたことがあったでしょうか。かつて7年前の東日本大震災の後、岩手県野田村の仮設住宅を訪ねさせて頂きながら示されていった、闇の中でこそ輝くキリストの光こそが、まさに今、この私たちを照らしていることを、ヒシヒシと感じています。9月6日未明、大きな揺れの後に訪れた闇が、私たちを深い不安へと陥れました。いつまで続くかわからないこの闇の状態の中で、不自由さの中で、またいつ揺れるかわからないという不安の中で、私たちの心は揺れました。しかし、その闇の中で見出したのは、空いっぱいに輝く星たちのきらめきでした。あなたが既に与えてくださっていた光に、普段私たちはどれほど無自覚で、目を留めないままに過ごしていたのでしょうか。わずかな光に、身を寄せ合いました。闇の中で声を掛け合いました。あなたが既に与えてくださっていたつながりに、普段私たちはどれほど無自覚で、目を留めないままに過ごしていたのでしょうか。再び日常の光が戻った時、多くの人々がこの教会に身を寄せられました。いつも教会の前を通り過ぎて行っていた人たちが、次々と安堵した顔で教会に足をふみいれられました。私たちが知らず知らずのうちに作ってしまっていた垣根が壊されていったように感じました。

ああ主よ、どこまであなたの御旨は深いのでしょうか。その御旨の深さが、私たちにははかり切れず、今も拭いきれない不安にさいなまれています。困難と痛みの中で苦しんでおられる道内の人々のことを思うと、ますます心が痛みます。しかし主よ、この闇の時こそ、あなたが与えてくださる真の光を見出す時であることを私たちは学びました。この光をこそ、私たちの支えとし、道を照らす灯とし、また身を寄せ合うべき拠り所としていくことを、私たちの忘れることのないように、導いていてください。主よ、お助けください。主よ、お守りください。私たちの主なるキリストの御名によって祈ります、アーメン。

# 特集　「北海道バプテスト連合信徒大会 in 日高」

8 月 12 日（日）から 14 日（火）にかけて 10 年ぶりに信徒大会を実施しました。今回は全道 14 教会から 87 名（うち連盟関係者 3 名）の出席がありました。今回の連合ニュースではその報告を中心にお伝えします。

【1 日目】　交わり・ゲーム

松坂先生司会の下、名前集めゲームを行い、その後「バッピー（バプテスト誌のキャラクタ）登場で大いに盛り上がり、大人も子供も打ち解けた雰囲気になりました。

【2 日目】

午前中は各会に分かれて協議・分かち合いを行いました。午後はオプションプログラムとしてそれぞれに分かれて活動、夜は連盟からの要請で「協力伝道会議」を開催しました。（それぞれの報告は後の記事を御覧ください）

【3 日目】

音楽委員会と真部恵子さん指導の下、賛美と証の時間を持ち、また西島啓喜氏のメッセージで派遣礼拝を行いました。

## ●連合信徒大会での壮年会の報告

壮年会の概要：壮年会は信徒大会 2 日目の 8 月 13 日（月）の午前 9 時より 3 時間、日高青少年自然の家の小研修室で開かれました。出席者は北海道 13 教会より壮年 26 名、連盟より 3 名でした。讃美歌、祈祷をもって開かれました。

神学校献金についての取組や状況：まず、各教会における神学校献金の活動を紹介して戴きました。また、神学生として奨学金を受けた恵みについて室蘭教会・吉田牧師、苫小牧教会･田代牧師よりお話を聞きました、関連して、参加されていた牧師先生達から、神学校の奨学金の他に、自身の経験から出身教会や研修先教会からの支援があった例の紹介がありました。

吉高常務理事からの伝道者育成の課題のお話：全国 33 教会（全体の 1 割）が無牧であり、連盟では 1 億 3000 万円の奨学金を運用して、伝道者育成を行っている旨の説明がありました。また教会の規模では予算規模 500 万円未満で 50%、:300 万円未溝のところが 25% あるそうです。産業界の大卒の初任給ガと比べ、神学校卒の新任牧師の給与が単純な比較は危険であっても、大幅に下回っていることの紹介があり、この問題を放置してよいのだろうかという問題提起がありました。

参加者の意見：釧路教会の奥村牧師より。ご自身の経験で牧師以外の仕事をしながら宣教活動をされた例をお聞きしました。教会員だけの献金で、牧師の全給与を負担できない場合は、牧師自体が自ら別の仕事をせざるを得ない状況はよくあるそうです。教会が、独自で牧師を支えられれば言うことはないが、不可能な場合の連盟や連合がもっと支援出来ないか、牧師が社会に入り込んで、副業的に教師や介護、社会的奉仕をやること自体を、我々はもっと支援しなくてはいけないのではないか、などの意見もありました。

神学校献金を壮年会で支えると同時に考え祈っていく課題がこの壮年会で再確認できたことを感謝します。

札幌教会　小林俊一

## ●『数えてみよ主のめぐみ』～信徒大会女性信徒の会報告

窓の外に日高の自然を感じながら、20 名程が顔を合わせ、讃美を合わせ、女性信徒の会の時間がはじまりました。今回出席できなかった女性信徒の会会長からお手紙による招きを受け､｢数えてみよ主の恵み｣のテーマで、グループに分かれ主から与えられている恵みを分かち合う時でした。既に知り合っているように思っ

ていたメンバーであっても、教会との出会いや、これまでの信仰の歩みを初めて聞いたり、主の計画の中に歩ませてもらっていることを感謝する時。初めましてと挨拶して始まったのに最後は家族の為に祈りあうことができた時。それぞれ豊かな時がありました。

私にとってはこの信徒大会前に与えられた出来事で、笑うことも泣くことも上手くできなくなっていた時でした。共に笑い、共に涙し、祈り合う時が与えられたことこそ「主の恵み」でした。お隣の壮年会の会場にいた連合会長に声のボリュームを…と言われてしまうほど、盛り上がってしましましたが、参加できた影に子どものプログラムを引き受けて下さった方がいたことも当たり前ではない感謝です！

今回、限られた短い時間ではなく、時間も空間もゆったりと与えられ話し合うことができました。参加者から最後に小羊会への思いが語られました。大切な課題も、このようなゆったりとした気持ちと時間で、みんなで話し合える時間が持てたら…と思わされ、集まりを終えました。

準備をしてくださった実行委員の方々役員の方々、送り出してくださった教会に心から感謝いたします。

旭川バプテスト教会　田森恭子

## ●信徒大会に参加して（フィールドワーク）

信徒大会2018に参加しました。小さな子どもから大人まで。主に在る兄弟姉妹との交わりの時間は温かくて、本当に感謝と平安の時でした。大会に与えられた聖書箇所”ローマ人への手紙1:11～12”にも励まされました。

1日目の夜は交流ゲーム。2日目の午餉は各グループに分かれた交わり、午後はフリータイムで、私は二風谷アイヌ文化博物館へ行くグループに参加しました。青年の家から車で約1時間ほどの場所にあります。博物館の外観は少し独特で、「十字架を立てたら教会みたい!!」とみなさんが言われるような造りでした。アイヌの人々の知恵や技術が詰まった工芸品や、生活の様子が分かる貴科がたくさんありました。厳しい環境の中でのアイヌの人々の知恵や、自然を恐れ敬う気持ちや、おのずと神を求める姿勢や祈りが生活に根付いていることを改めて知りました。アイヌ文化の学びを通して、その土地の歴史、特にアイヌの歴史をまず知ること、尊重することの大切さを感じ、その上で今の自分の信仰のことをまた考えていきたいと思いました。

3白目の派遣礼倖では豊かな賛美と漏かい証しと今回のテーマに深くつながるメッセージを聴き、自分は何ができるのかを考え、また恵みに深く感謝しました。こうした北海道全体の交わりは、再ぴ会える喜びを共有できる素敵な時間だと感じました。傷徒大会のための多くの準備を。本当にありがとうございまＬた。

釧路教会　川端花子

## ●信徒大会に行って（ユースバンド、少年少女の集い

ハレルヤ 主の御名を賛美します。

色々なハプニングなどにより信徒大会に行けるか分かりませんでしたが、たくさんの方々のご協力により、函館教会から3人の少年少女が送り出されたことを感謝します。

今回、信徒大会は初めてでしたが、たくさんの方々との出会いや再会がありました。
同年代の少年少女達と分かち合いをしたり一緒に遊んだりDVDをみたりしとてもいい交わりの時間となりました。
ほ　とんどの子が春の修養会や少年少女大会で一緒だったので楽しくすることが出来ました。
函館教会のユースバンドでバンドの奉仕をさせていただく時間があり、函館教会のゴスペルバンドThe Sowersのオリジナル賛美「さあ出かけよう」を賛美しました。会場の方々と一緒に楽しく賛美できて、嬉しかったです。また、たくさんの人の前で演奏する機会が与えられ貴重な体験を出来ました。

また、聖歌隊やリコーダーの方々と共に賛美を出来たことも感謝です。たくさんの方々と一緒にあわせて賛美出来て、とても嬉しかったです。それぞれの賜物を出し合って協力し、心から神様を賛美することが出来ました。色々な音が重なり合ってとてもいい賛美だったと思います。

少年少女の学びの時間では「この世界の片隅に」という広島の原爆の映画をみました。この映画をみて、改めて戦争の恐ろしさというものがわかり、もう二度と起こらないように、日々祈りたいと思いました。神様が与えてくださった命を大切にしていきたいです。
メッセージを聴いて神様からたくさん語りかけられたことがあり感謝です。

とても楽しい大会になり良かったです。また大会のあいだ、怪我などもなく守られたことが感謝でした。

本多基（函館キリスト教会：高1）

## ●聖歌隊レポート

緑に囲まれた「さんごの家」ホールでの聖歌隊参加者は、6 名ながら少数精鋭で、真部恵子姉が用意してくださった 20 曲程を楽しく練習することが出来ました。

また、リコーダーグループ、バンドグループとの合同讃美の練習も、とても豊かな時間でした。

聖歌隊練習では、特に発声についてのアドバイスを受け、それをじっくりと実践出来るのは、こうしたゆっくりとしたスケジュールでないと出来ないことですから、信徒大会の中のプログラムとして意義深かったと思います。聖歌隊を常設していない教会では、年に一回でもこうした指導を受けられるとモチベーションも変わってくるだろうなと思わされました。

20 曲の中で集中して練習したのは、翌日の派遣礼拝で奉仕予定の「いかにけがれたる」( 聖歌 701)、「キリスト教会の主よ」( 新生 363)、3 グループ合同讃美「たとえばわたしが」でしたが、派遣礼拝はほぼ讃美礼拝と言えるほど、音楽に溢れた礼拝だったことに感謝します。

主が音楽を用いてくださること、また、それぞれの地域、環境、年齢等の差を越えて、
主の恵みを共に感じ、分け合えることに励まされました。感謝と共に。　森 洋子 ( 函館美原 )

## ●ハモる連合

太鼓に合わせて踊りながら神を賛美せよ。
弦をかき鳴らし笛を吹いて神を賛美せよ。
（詩編 150 編 4 節）

ソプラノ、アルト、テナー、バス。「バスが一番簡単ですよ」。リーダーの三浦さんに促されて手に取ったものの、初めて見るそれはとても笛とは思えないほど長く太いものでした。他に例えるならば、大きなヤドカリ？または、ホルスタイン用のストロー？

6 月の牧師セミナーで来館した時に目に付いたのは「チャレンジする心を」というたれ幕でした。なので、今回の大会では何か新しいことに挑戦してみようとリコーダーアンサンブルの練習を希望しました。数年前、教会のクリスマスの祝会にと家族でリコーダーのアンサンブルを経験しましたが、その時も鬼のように練習をし、子どもたちから何度もダメ出しされ、ようやく形になったところでの演奏でした。今回は何しろ各パート一人です。緊張感もありましたが、不思議と練習は練習でなくなるものです。賛美に練習はあるのでしょうか？その時、少々外れてもみんなで音を出し合い、一つの賛美にしてゆく豊かさを今回、あらためて学びました。リコーダーは息を吹き入れて音を出すものです。神さまがわたしたち一人ひとりに命の息を吹き入れ生きる者とされたように、わたしたちも新しい主からの命の賛美を奏でることができるのは本当に幸いなことです。ハーモニーは違う音程、違う声が重なり合って響き合うものです。連合の一つひとつの教会も、背景も違えば集う人たちも違います。だからこそ響き合うことができるのでしょう。豊かなハーモニーをこれからもご一緒に。　松坂克世（旭川東光教会牧師）

## ●協力伝道会議に出席して

私たちの教会では事前のアンケートを提出できませんでしたが、連合諸教会のそれぞれの記載を読ませていただきたくさんの気づきが与えられたことを本当に感謝いたします。

プログラムのなかで室蘭教会がいま取り組んでいることとして、近隣の大学留学生が礼拝に共に与り、そこから次々に発生する事柄に祈りながら大胆にでも丁寧に向き合っていることを伺いました。また小樽教会でも、不思議な導きによって出会わされた方と豊かな交わりが与えられたとも伺いました。そのような報告を聞きながら、主の業は私たちの想像を超えた、ある意味予期しない事柄から私たちに「あなたは誰と共に生きるのか」と問われているように感じました。

私にとっても“隣人”はできれば関係性に安心感が伴うことを望んでいるようなところがありましたが、そうではなく主によって出会わされ、共に生き合う人を指すのではとあらためて気づかされました。

今回の信徒大会を終えての二週間後の礼拝に教会近所にお住いの男性（60 代）が礼拝に来られました。伺いますと「教会には初めて来て、これまで“信仰”ということをあまり考えてはいなかったけどなんとなく行ってみようかなと思った。」と話してくださったのです。そして今も続けて出席されています。

私たちも主によって出会わされた方とみ言葉を分かちあうこと、そして一緒に聞きあう事を導かれています。この主の業を伝道会議でわかちあった皆さんの言葉と祈りを糧にして大切にしてゆこうとしています。

藤原直之（旭川東光教会）